

平成 28 年度第 2 回 焼津市地域公共交通会議 会議録		開催	日時 平成 29 年 1 月 13 日 (金) 午前 10 時～11 時 15 分
			場所 会議室棟 101 号室
協議事項	(1) 地域公共交通確保維持改善事業事業評価について (2) 平成 29 年度自主運行バス運行計画について (3) 平成 29 年度路線バス単独継続困難路線の対応について		
報告事項	(1) 市内バス路線の利用状況及び運営基準による評価について		
出席委員 16 名	(公共交通会議) 会長 半田 充 (焼津市) 副会長 塩沢 英雄 (焼津市自治会連合会) 委員 長田 雅紀 (しずてつジャストライン(株)) 委員 田中 茂 (株アンビ・ア) 委員 高柳 文明 (静岡県タクシー協会志太榛原支部) 委員 鈴木 成幸 (中部運輸局静岡運輸支局) 委員(代理) 木佐森 雅裕 (静岡県交通基盤部) 委員 石垣 俊幸 (島田土木事務所) 委員(代理) 稲葉 一臣 (静岡県焼津警察署) 委員 鈴木 恒夫 (焼津市自治会連合会) 委員 遠藤 耕輔 (さわやかクラブやいづ連合会) 委員 油井 尋治 (さわやかクラブやいづ連合会) 委員 村上 とき子 (焼津市民生委員児童委員協議会) 委員 古桑 容子 (焼津市社会福祉協議会) 委員 新井 恵子 (静岡福祉大学) 委員 秋山 藤治 (焼津市都市基盤部) (事務局) 都市基盤部都市計画課		
欠席委員 2 名	委員 平野 洋一 ((一社) 静岡県バス協会) 委員 大塚 正訓 (しずてつジャストライン労働組合)		
傍聴人	1 名		
議事内容			
会議の成立	委員総数 18 名の内 16 名が出席。過半数を超えているため会議は成立。		
協議事項	(1) 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価について ⇒地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について説明。(事務局) ・大井川焼津線は、事業実施の適切性は計画どおり適切に実施したため、A 評価。数値目標は、利用者数は目標を達成したが、収支率については未達成であったため、B 評価。大井川西部循環線については、事業実施の適切性は、計画通り適切に実施したため A 評価。数値目標はいずれの目標も未達成であったため C 評価。 ・次年度以降の対応として、大井川焼津線は利用促進を中心とした改善策を検討し、大井川西部循環線は運行形態の見直しなど具体的な収支改善策を検討。 ・アピールポイントとして、地元自治会への情報提供やバスを利用したマーケティングマップの作成、地域振興イベントでの啓発活動の実施など、利用促		

進策を実施したことを記載。

【採決】

○地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について、軽微な修正は事務局に一任するというので、事務局案に賛成の方は挙手を願う。(半田会長)

⇒出席委員の賛成総意により承認。

(2) 平成 29 年度自主運行バス運行計画について

⇒来年度の自主運行バス運行計画の方針案について説明。(事務局)

・焼津循環線…経路変更なし。定時性確保のため若干ダイヤを修正。

・大井川焼津線、大井川西部循環線…変更なし。

・下根方地区デマンド型乗合タクシー…9 月末まで実験運行。利用状況を検証。

・利用促進策…こども移動絵画展、バスを利用したウォーキング事業、オータムフェストでの利用啓発などを継続して実施。

○焼津循環線はなぜ時刻通りに運行できないのか。(村上委員)

⇒朝の通勤ラッシュで交通量が多いため、時刻より遅れる便がある。具体的には、焼津駅から文化センターを経由し西焼津駅へ向かう「さつき」2 便で、定刻より遅れることが多い。余裕のある区間の時間を短くし、余裕のない区間にその時間を充てることで、全体的に定時性が確保できるよう修正をしたい。(事務局)

【採決】

○平成 29 年度自主運行バス運行計画の方針案について、事務局案に賛成の方は挙手を願う。(半田会長)

⇒出席委員の賛成総意により承認。

(3) 平成 29 年度路線バス単独継続困難路線の対応について

⇒市内を運行する民間路線バスに対する対応について説明。(事務局)

・いずれの路線も通勤通学及び高齢者の生活交通路線として必要不可欠であるため、今年度に引き続き路線維持のため財政支援を行う。

・運行事業者ほか関係機関と協議・調整をしながら、更なる利用促進策及び収支改善策を図り、補助金額の抑制に努める。

・地域間幹線について、引続き路線維持のため国県に協調し財政支援を行うとともに、広報誌やホームページ等で情報発信を行い、利用促進を図る。

(地域間幹線系統市町取組シート)

【採決】

○平成 29 年度路線バス単独継続困難路線の対応について、事務局案に賛成の方は挙手を願う。(半田会長)

⇒出席委員の賛成総意により承認。

報告事項

(1) 市内バス路線の利用状況と運営基準による評価について

⇒市内バス路線の利用状況及び運営基準による評価について説明。(事務局)

・自主運行バス全体では、昨年度より減少したが一昨年度程度の利用は維持。

・焼津循環線は、平日利用の減少と焼津駅前と総合福祉会館の減少がみられる。また、運賃収入の減少幅に比べ利用者数の減少幅が小さい。以上のこ

	<p>とから、平日に福祉施設などへ割引運賃で利用している方が減少したことが、利用減の一因として考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大井川焼津線は、1日あたりでは3人程度の減少にとどまる。バス停別では大井川庁舎から市立病院の間の利用が1日あたり4.15人減少。大井川地区での通院、買い物での利用が減少したと考えられる。一昨年度の利用は維持していることから、昨年度新たに利用した方が今年度は利用しなくなったことも一因と考えられる。 ・大井川西部循環線は、土日祝運休の影響は想定(-15%)より小さく、1日あたりの利用者数は昨年と比べ10人程度増えている。昨年度までの土日祝日の利用が平日にシフトし、効率化が図られたと考えられる。 ・今年度の利用見込みの運営基準による評価について、ステップ1（人口カバー率及び医療施設等へのアクセス状況によるサービス水準の評価）及びステップ2（年間利用者数や輸送コストによる自主運行バス全体の評価）は、概ね基準を満たす見込み。路線別では、焼津循環線は利用者数、収支率のいずれの指標も基準を満たす見込み。大井川焼津線は利用者数は基準を満たすが、収支率は基準を満たさない見込みであり、沿線地域に参加・協力を求めるとともに、コスト削減策及び利用促進策を検討。大井川西部循環線はいずれの指標も基準を満たさない見込みであり、3年続けて基準を満たすことができない見込みとなり、早期に抜本的な見直し策を検討しなくてはならない非常に厳しい状況。 ・下根方地区デマンド型乗合タクシー実験運行の10月から12月まで3ヶ月間の利用状況は、利用者数64人、運行便数61便、1便当たりの乗車人数は1.05人であった。収支率は21.5%、一人当たりの輸送コストは1615.8円と大井川焼津線、大井川西部循環線に比べ効率的である。今後は、乗合率を上げ、より効率的な運行となるような対策が必要と考える。 ・民間路線バスの利用状況は、路線全体では前年度並み。焼津大島線、藤枝吉永線、藤枝相良線は増加傾向。一色和田浜線、焼津岡部線、五十海大住線は減少。特に焼津岡部線の減少幅が大きい。 <p>○3ヶ月間の実績で評価は難しいと思うが、利用者は増えてきているのか。また、今後は乗合率を高める方策や制度周知に努めていただきたい。(鈴木委員)</p> <p>⇒徐々に利用者は増えており、今後利用者が増えてくれば乗合率も高まると思われる。(事務局)</p> <p>○小学生料金が設定されているが、実際に小学生の登録はあるのか。(木佐森代理委員)</p> <p>⇒現在4名の登録がある。(事務局)</p> <p>○小学生の登録は、大崩海岸が崩落し県道が寸断されている元小浜地区の登録か。(石垣委員)</p> <p>⇒元小浜地区については、実験運行では対象でないため、別の地区の小学生である。(事務局)</p>
<p>会議録 配布先</p>	<p>作成者 都市計画課 平田</p>